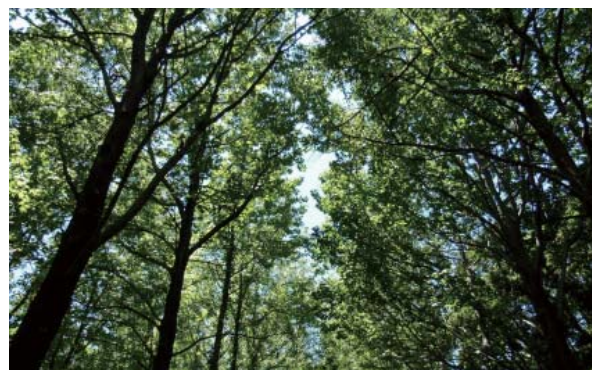


活動報告書

平成23年度



目次

| | |
|--------------------------|---|
| ■平成23年度を振り返って | 2 |
| 地域連携協働センター長 柳澤 正 | |
| ■地域連携コーディネーター活動報告 | 3 |
| □地域連携コーディネーター活動報告 | |
| 地域連携協働センター特任教授 土居 英二 | |
| □地域からの期待と信頼に応えられたか | |
| 地域連携協働センター特任教授 満井 義政 | |
| ■関連各組織の活動報告 | 5 |
| □地域連携協働センター | |
| 研究協力課主任 森本 真弘 | |
| □生涯学習教育研究センター | |
| 生涯学習教育研究センター長 阿部 耕也 | |
| □地域社会文化研究ネットワークセンター | |
| 地域社会文化研究ネットワークセンター長 野方 宏 | |
| □防災総合センター | |
| 防災総合センター長 増田 俊明 | |
| □高柳記念未来技術創造館 | |
| 電子工学研究所准教授 青木 徹 | |
| □情報学部地域連携推進室 | |
| 地域連携推進室長 岡田 安功 | |
| □イノベーション共同研究センター | |
| イノベーション共同研究センター長 木村 雅和 | |
| □工学部高大連携WG | |
| 工学部高大連携WG委員長 星野 敏春 | |

平成23年度を振り返って

地域連携協働センター長 柳澤 正



静岡大学地域連携協働センターは、設置から丸4年が経過し、その間、多くの学内外の皆様のご理解とご協力のもとに、様々な地域連携活動を展開してきました。平成23年度では、今までの活動を継承しつつ、幾つかの新しい取り組みを開始しました。

まず、地域連携応援プロジェクトの募集と支援が挙げられます。これは、本学の地域連携活動を活性化するために、学生・教職員が主体となり、地域の人々や団体、自治体等と協働で取り組んでいる又は新たに取組もうとする地域の活性化に繋がる活動を掘り起こし支援するものです。学内公募には17件の応募があり、当センターで7件総額100万円の支援を行い、また防災総合センターが4件の支援を行いました。その成果については、2回の報告会（平成24年1月26日、4月19日）で発表するとともに、成果報告書（http://www.crc.shizuoka.ac.jp/publication/report2011_ouen.pdf）に掲載していますので、ぜひご覧ください。

次に、平成23年3月11日の東日本大震災とそれに続く原発事故を受け、国立大学協会と本学との共催で、日本再生・防災シンポジウムを県内3ヵ所（10月16日静岡市、11月5日沼津市、11月6日浜松市）で開催しました。「多角的な災害教訓から静岡の防災を考える」をテーマに、防災総合センターのコーディネートのもとに、各会場で異なる登壇者による2件の基調講演とパネルディスカッションを行い、多くの市民や防災関係者の参加を得て、静岡県で危惧される災害・防災について考え討論しました。

一方、地域社会とともに歩む大学として課題となっていた地域コミュニティとの連携に関し、大学キャンパス近隣の自治会長等との懇談会（1月27日静岡地区、1月31日浜松地区）を開催しました。学長や副学長等の参加を得て、防災や学生生活などに関わる率直な意見交換を行い、課題を確認し合いました。

さらに、地域交流の一環として、地元のサッカーJ1クラブチーム・清水エスパルスの試合（10月23日、ヴァンフォーレ甲府戦、アウトソーシングスタジアム日本平）に本学教職員が応援に出掛けました。これは、エスパルスホームタウン推進活動の一環である「地域

交流応援シート」制度を活用し、本学教職員サッカー部の協力を得て実現したものです。なお、本学学生・教職員が展開する「エスパルスドリーム教室」や「エスパルスエコチャレンジ活動」などの活発な地域連携活動を踏まえて、（株）エスパルスと本学との間で3月27日に包括連携協定を締結しました。

例年通りの活動としては、3年目を迎えた静岡大学・中日新聞連携講座を開催し、「3.11以降をどう生きるかー地域の再生と絆づくりのためにー」をテーマに、全5回に渡り、エネルギー、絆創り、地震、ボランティア、リスク社会に関わる講演を実施しました。

また、今年で4年目となる「静大フェスタ」に関し、学生の「静大祭」と連動してキャンパス内での同時開催に切り替え、静岡地区では「キャンパスフェスタin静岡」、浜松地区では今まで同様「テクノフェスタin浜松」として大学の活動を市民の皆様にご公開しました。特に、静岡地区では各学部の主体的な取り組みも始まり、今後のフェスタの新しい形が見えてきました。

毎年全国の大学の地域貢献度ランキング調査の結果が「日経グローバル」誌に掲載されますが、本年度の本学の総合ランキングは全国489の回答大学中で25位（昨年18位、一昨年31位）、国立大学法人中では16位（昨年8位、一昨年18位）でした。

なお、当センターは、平成24年4月より、生涯学習教育研究センター、イノベーション共同研究センター及び知的財産本部と融合一体化し、新たに「イノベーション社会連携推進機構」として社会連携活動を推進していきますので、今までと同様に皆様のご支援・ご協力をどうぞ宜しくお願いいたします。



日本再生・防災シンポジウムの様子

地域連携コーディネーター活動報告

地域連携協働センター特任教授 土居 英二



1. 地域連携協働センターのマネジメント機能強化のために

■ 本学教員・学生の地域連携活動の実態を把握するため、各学部長、各学部地域連携組織の長へのヒアリングを行った。また教員・学生の地域連携活動の実態に関する情報所在源を整理した。

2. 行政との連携に関するコーディネート活動

■ 静岡県庁より、建築安全審査委員会委員の委嘱について相談を受け、本学教員を推薦し承諾を得た(5/12)。

■ 静岡県庁より、「富士山静岡空港×ジュビロ磐田(対アビスパ福岡戦)」コラボキャンペーンに際し、学生ボランティア20名確保の依頼を受け、本学教員及び静岡産業大学の協力を得て、予定の学生数の確保を行った(5/21)。

■ 静岡市より、市長及び農業団体の韓国訪問を控え、韓国語研修講師派遣の相談を受け、静大留学生を講師として派遣し同行した。静岡市?秘書室職員他10名の参加があった(9/6)。

■ 静岡市より、多文化言語講座(英語・中国語・韓国語)講師の派遣依頼を受け、静大留学生指導教員と協議を行い講師を派遣し同行した(10/26)。

■ 静岡市より、認定農家組合による「農業祭」(青葉通り広場)開催につき、市内農家支援のため、静岡大学(農学部)から1区画出展してほしい旨の相談を受け、北川広報室長に仲立ちをしてもらい、農業祭当日、農学部・農場教員と学生が参加した企画展示並びに静岡大学特産品の即売会が実施された(11/16)。

■ 藤枝市の協力を得て、本学学生による藤枝市市街地中心部再生事業を対象とした卒業研究発表会が開催され、市役所職員、民間企業等の関係者の参加を得た(新聞報道も)(2/29)。

3. 他団体との連携に関するコーディネート活動

■ 焼津魚センター協同組合理事より、イベント「食のフェア」開催時に実施する学生アンケート調査員6名の派遣依頼を受け、社会体験ともなることから静

大中国人留学生6名を派遣・同行した(5/28他2回)。

■ 藤枝青年会議所より、川勝知事の講演と市民意見発表会を内容とする記念大会に際し、学生・市民発表者募集協力の依頼を受け、協力した(11/9)。

■ 中小企業団体中央会(連携組織課)より、「農商工連携人材育成事業」の講師派遣依頼があり、講師を推薦した。

4. 公募事業への応募に関するコーディネート活動

■ 科学技術振興機構(JST)公募事業につき、本学イノベーション共同研究センター林正浩教授より、人文学部教員の参加について相談を受け、環境を専門とする3名の文系教員が理系教員とともに分担研究者として応募することとなった。

■ 静岡県・大学ネットワーク静岡の公募事業(県内大学間連携による「共同公開講座」委託事業)に際し、野方宏教授(人文学部)を代表として、浜松大学、日本大学短期大学部の観光を専門とする3大学の教員のチームを結成し「富士山静岡空港開港により新しい時代を迎えた静岡県の観光」をテーマに応募し採択された。中部(静岡市10/20)、西部(浜松市11/24)、東部(三島市12/2)において学生の発表と外部講師5名の講義を含む3回の講座が開催された。

5. 広報活動支援など

■ 地域連携協働センター関係事業の広報に協力した。



静岡県・大学ネットワーク静岡共催の共同公開講座の様子

地域からの期待と信頼に応えられたか

地域連携協働センター特任教授 満井 義政



■「しずぎんアジア留学生奨学金制度」設立への協力

前年度に引き続き、静岡銀行の留学生奨学金制度設立に協力、情報・意見交換などを重ね、昨年8月学生募集、本年4月に制度がスタートする。アジア地域と静岡県の橋渡しを担う人材の育成などを目的に設立された。奨学生10名の内4名が本学学生に決まり、2年間月額10万円の奨学金が支給されることになった。

■大学ネットワーク静岡と静岡県経済4団体との就職促進の「共同宣言」を企画

静岡県経営者協会、県商工会議所連合会、県商工会連合会、県中小企業団体中央会及び大学ネットワーク静岡は新卒者の就職のミスマッチを解消し就職の促進を目的とした連絡会を設立した（平成23年12月）。

双方の共同宣言では、学生と企業の「顔の見える関係づくり」をもとに課題解決に当たることとした。

大学、民間事業者、行政などの雇用対策をより実効性のあるものにするため大学と経済界との調整を図り、対策案を立案し中長期的な学生の就職支援を行う。連絡会の事務局を（財）静岡経済研究所と共に満井就職支援財団が担うことになった。

また、例年実施している「若年者の就労意識調査」は新卒者を対象として、学生と採用企業側との意識や人材像の変化やミスマッチの原因などを中心に静岡経済研究所と満井就職支援財団が共同で行い5月に調査結果を公表するとともに、静岡商工会議所代議員会議などでプレゼンテーションを行った。

■学内での活動

- ・ 浜松キャンパス人材育成プロジェクトへの参加と考察（海外インターンシップやOBとの交流会など）
- ・ 大学教育センターキャリアデザイン教育授業「大学を外から見ると」に講師として参加
- ・ 人文学部言語文化学科の授業「情報意匠論」にオブザーバー参加
- ・ 学生支援センターの担当教員とキャリア教育の役割と学生の進路選択、ビジネスマッチングにおけるインターンシップの成果などについて協議
- ・ 地域連携協働センター運営委員会、組織改組のミー

ティングに参加

- ・ 「地域連携応援プロジェクト」の選考会、報告会に参加
- ・ NPO法人ONES「多文化共生プロジェクト」成果報告会にオブザーバー参加
- ・ 土居コーディネーターとパートナーズクラブ、災害雇用、新たな地域連携の機構などについて意見交換

■学外組織との連携や意見交換

- ・ アップレ会（市民と静大・共同企画講座をすすめる会）による人文学部言語文化学科への協力と学生の自主的学外活動（アップレ門前塾・リーディングカフェ）の支援
- ・ 農学部の静岡市梅ヶ島大代地区の集落ミーティングに参加
- ・ 浜松地域テクノポリス推進機構へのインターンシップについて協力依頼（浜松メッセ・オプトロニクスフェア）
- ・ 大学ネットワーク静岡の木苗会長と就活ミスマッチ解消の大学の対応策と産業界への要望について協議
- ・ 静岡県立大、静岡産業大、常葉大各キャリア支援室と意見交換（就活の実態と展開についてなど）
- ・ 法政大学静岡キャンパス運営協議会に参加
- ・ 光産業創成大学大学院の企業講座の事例研究の講師
- ・ SOHO静岡「ベンチャーカフェ」の講師
- ・ SPAC（静岡舞台芸術劇場）と即興劇の研究
- ・ 労働新聞社と東日本大震災の災害雇用について研究
- ・ 日本経済新聞社などマスコミ各社との意見交換



新卒者の就職のミスマッチ解消のための連絡会設立（平成23年12月）

地域連携協働センター活動報告

研究協力課 主任 森本 真弘



中日新聞連携講座（第3回）の様子

<地域連携応援プロジェクトの実施>

さまざまな地域連携活動を実施している学生・教職員を対象に今年度から本プロジェクトを募集し、7件のプロジェクトの支援を行った。経費支援の他、成果報告会の開催や成果報告書の公開によりこれらのプロジェクトの広報支援を行った。詳細は報告書を参照のこと。

http://www.crc.shizuoka.ac.jp/publication/report2011_ouen.pdf

<中日新聞連携講座の実施>

生涯学習教育研究センターの協力を得て、「3.11以降をどう生きるか～地域の再生と絆づくりのために～」をテーマに、10月から平成24年2月にかけて5回の講座を行った。参加者は5回のべ205名であった。

<地域コミュニティ懇談会の実施>

地域自治会と連携を図るため、静岡キャンパス周辺の自治会・連合会関係者及び浜松キャンパス周辺の自治会関係者との懇談会（平成24年1月27日、31日）を行い、主に防災やマナーについて意見交換を行った。

<防災・日本再生シンポジウムの開催>

国立大学協会と共催で、静岡（10月16日）、沼津（11月5日）、浜松（11月6日）の県内3か所で「多角的な災害教訓から静岡の防災を考える」と題したシンポジウムを開催し、防災に関する様々な情報を地域

の方に提供した。参加者は3か所で274名であった。

<静岡健康長寿学術フォーラムへの参画>

例年、静岡総合研究機構を事務局として開催されてきた本フォーラムは、今年度、静岡県立大学に事務局を移し、静岡県立大学・浜松医科大学と本学の3大学が連携して開催した。本学の河岸洋和教授（創造科学技術大学院）がセッションの講師を、杉浦敏文教授（電子工学研究所）がセッションの座長を担当した。

<覚書・協定の締結>

- （財）静岡市文化振興財団との覚書（科学技術啓発普及分野）（平成23年6月10日）
- コープしずおかとの覚書（平成23年10月12日）
- エスパルスとの包括協定（平成24年3月27日）

<ニュースレター発行>

静岡大学に展開される大小さまざまな地域連携活動を紹介するニュースレター「地域とともに」を平成22年度から発行しており、23年度は、7月、1月の2回発行し、ウェブサイト（URL:http://www.crc.shizuoka.ac.jp/news_letter.html）に掲載した。

<ウェブサイトの運営>

本センターのウェブサイトで99件の学内外のイベント情報等を掲載し、本学の社会連携に関する広報を行った。



エスパルスとの包括協定

生涯学習教育研究センター活動報告

生涯学習教育研究センター長 阿部 耕也



社会教育主事講習の様子

<静岡大学公開講座の実施>

5月から3月にかけて、静岡・浜松の両キャンパス、藤枝の附属施設、静岡、浜松、沼津の各生涯学習施設など様々な会場で実施。多岐にわたるテーマで全15講座開講し、受講者数は309名だった。

<市民開放授業の実施>

静岡大学の正規科目を一般市民の方に開放する市民開放授業を実施し、今年度は開放科目数479、受講者数274人、のべ受講科目数435だった。

<平成23年度東海ブロック社会教育主事講習の実施>

静岡、愛知、岐阜、三重4県の社会教育主事資格取得希望者(29名)に対し4科目9単位の講習を実施し、20名の修了者を出した。

日時：7月25日～8月20日

会場：静岡大学、静岡県立森林公園「森の家」、富士宮市麓山の家、静岡市立登呂博物館、静岡市産学交流センター等

<創立60周年記念関連事業の実施>

■静岡大学・読売新聞連続市民講座「地域から広がる可能性」

日時：5月14日～12月3日 14:00～16:00(全8回)

会場：静岡市産学交流センター(B-nest)

■静岡大学・コープしずおか連携公開講座「<いのち>と環境を考える」

日時：9月10日～2月18日10:00～12:00(全

9回)

会場：沼津市市民文化センター、静岡市産学交流センター B-nestほか

■静岡大学・中日新聞連携講座「3.11以降をどう生きるか～地域の再生と絆づくりのために～」

日時：10月8日～2月18日 14:00～16:00(全5回)

会場：アクトシティ浜松研修交流センター、静岡大学浜松キャンパス

<公開シンポ「学習ネットワークと生涯学習14」>

自治体と大学間ネットワークとの連携、学生の参画による生涯学習・地域づくりの実践事例を取り上げながら、生涯学習のための学習ネットワーク構築の可能性を検討した。

日時：12月20日(火) 12:45～14:15

会場：静岡大学共通教育A棟301教室

<博物館フォーラム「博物館活動と学芸員資格ー現場の声を聞くーPart.2」>

静岡大学で学芸員資格を取得し、さまざまな形で博物館と関わりを持ちながら仕事をしている人々を招いて、どのような経緯で就職し、現在どのような仕事をしているのか等、現場からの声を交えながら、多様な博物館との関わり方を探った。

日時：1月26日(木) 12:45～14:15

会場：静岡大学共通教育B棟401教室

<生涯学習指導者研修事業「地域の課題と公民館」>

静岡県内の公民館活動などを通して、生涯学習事業を展開している生涯学習指導者への教育研究情報の提供と大学とのネットワークづくりを進めるとともに、指導者の資質の向上を図ることを目的に、静岡県公民館連絡協議会との連携事業として実施した。

日時：2月8日(水) 10:00～16:00

会場：静岡市興津生涯学習交流館

<公開セミナー「学ぶって楽しい!～大学で学ぼう～」>

知的障害のある人が、学校卒業後も生涯学習の機会



出前講座（しずだい飛ぶ教室）の様子



静岡市・大学連携事業 市民大学リレー講座の様子

を持ち、より豊かな人生を送ることができることを目的に、公開セミナー「学ぶって楽しい！」を実施した。

日程：6月19日、10月16日 9:15～12:15（全2回）

会場：静岡大学教育学部G棟、静岡市登呂博物館

企画協力：静岡県知的障害者就労研究会

<出前講座（しずだい飛ぶ教室）の実施>

しずだい飛ぶ教室inしずおか未来学園・夢未来塾「科学の楽しさ、化学の面白さ」を実施した。

講師：坂本健吉理学部教授

日時：9月18日（日）9:00～12:15

会場：静岡聖光学院中学・高等学校

<企画協力事業>

■静岡市・大学連携事業 市民大学リレー講座

「文明と環境～人類社会が向かうべき未来とは～」

日時：9月10日～10月22日 13:30～15:30（全5回）

会場：静岡市アイセル21

主催：静岡英和学院大学、静岡県立大学、静岡大学、東海大学、常葉学園大学、静岡市

■吉田町特別公開講座「震災に備える、震災後を生きる」

日時：12月8日～1月26日 19:30～21:00（全6回）

会場：吉田町中央公民館

主催：吉田町

■地域連携応援プロジェクト成果報告会（第1回）

日時：1月26日 17:30～20:00

会場：共通教育A棟301教室（静岡）、浜松キャンパス総合研究棟10階会議室（浜松）

主催：静岡大学地域連携協働センター

<刊行物>

■センター研究紀要「生涯学習教育研究」第14号

■広報誌「地域と大学」23号、24号

■静岡大学公開講座ブックレット4「今、再びくいのち>を考える」

■静岡大学公開講座ブックレット5「くいのち>と環境を考える」

■静岡大学公開講座ブックレット6「沼津の古代遺跡を考える」

■平成23年度静岡大学社会教育主事講習研究集録

■公開セミナー報告集「学ぶって楽しい！大学で学ぼう」通巻第8号

<ウェブサイト <http://www.Lc.shizuoka.ac.jp/>>

ニュースレター『地域と大学』のバックナンバーや、当センターで発行した報告書がダウンロードできるようになっている。問い合わせのフォームもあり、大学開放事業・講座の企画・講師紹介に関することなど気軽に問い合わせいただきたい。

地域社会文化研究ネットワークセンター活動報告

地域社会文化研究ネットワークセンター長 野方 宏



地域社会文化研究ネットワークセンター（以下、センター）の活動は、大別して3つあります。＜定期刊行物の発行＞、＜講演会・見学会などの開催＞、＜事業相談・人材派遣など＞です。

センターでは毎年、定期刊行物として『地域研究』、『みんなの大学（カラー版）』、『みんなの大学（FW特集版）』の3冊を公刊しています。

学術誌『地域研究』は人文学部の学部重点課題として資金配分を受けた研究プロジェクトの研究成果を論文の形で公表する媒体です。今年度は4つの研究プロジェクト（伊豆地域の観光業の振興と地域の活性化、大学アーカイヴズの構築、静岡SDモデルの開発、大規模災害発生時の地域社会と経済活動の継続計画）が採用され、研究成果が平成24年3月末に公刊される『地域研究』に掲載されます。

地域に向けた情報発信誌である『みんなの大学』には、「カラー版」と「FW（フィールドワーク）特集版」の2つがあります。「カラー版」は人文学部の教

員・学生による地域連携活動を写真を交えて紹介したものです。今年度は、人文学部4学科における地域に関わりのある活動・研究の一端が取り上げられ、「地域の古墳を掘る」（社会学科）、「本物の芸能を学内で」（言語文化学科）、「自治体における条例策定への関わり～掛川市での取り組みをめぐって～」（法学科）、「伊豆の観光を考える」（経済学科）というタイトルの下、カラー写真を交えて予備知識のない方にも分かりやすい説明がなされています。

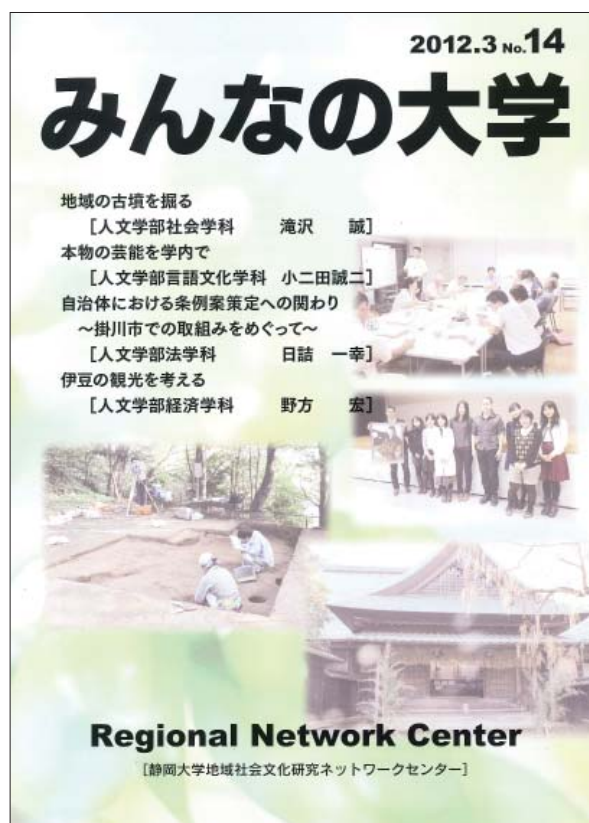
「FW特集版」は人文学部におけるフィールドワーク教育（学外をフィールドとした教育活動）の内容を紹介したものです。今年度は、社会学科、法学科、経済学科で行われた8つのフィールドワーク教育・実習が紹介されています。

なお、センターの定期刊行物に関心のある方は末尾に記したセンターまでお問い合わせください。

今年度の講演会に関するセンターの活動としては、静岡県・大学ネットワーク静岡の委託を受け、「富士



学術誌「地域研究」



情報発信誌「みんなの大学」

山静岡空港開港で新時代を迎えた静岡県の観光を考える」をテーマに、静岡大学、浜松大学、日本大学（短期大学部）の3大学が共同して「共同公開講座」を県内3カ所（静岡市、浜松市、三島市）で行いました。また、この共同講座では3大学の教員だけでなく3大学の学部・大学院生もアンケート調査を行い、その結果の発表も行いました。

第1回は静岡大学を企画実施担当校として「静岡県の観光と空港利用の課題を探る」をテーマに、2011年10月20日に静岡市（パルシェ7階会議室）で実施されました。3人の講師による3つの講座と静岡大生



共同公開講座「静岡県の観光と空港利用の課題を探る」の様子
上から第1回、第2回、第3回

によるアンケート調査が報告され、その後、講義参加者と講師の間で活発な質疑応答が交わされました。

第2回は浜松大学を企画実施担当校とし、「国際観光による静岡県西部地域の活性化—インバウンド観光による浜松まちなか・にぎわい創り—」をテーマに、同年11月24日に浜松市（アクトシティ浜松CC）で実施されました。第1部では講義と大学院生によるアンケート調査報告が、第2部では3人の講師によるパネルディスカッションが行われ、ここでも熱心な質疑応答が交わされました。

第3回は日本大学（短期大学部）を企画実施担当校とし、「観光産業とホスピタリティマネジメント」をテーマに、同年12月2日に三島市（三島商工会議所）で実施されました。2つの講義と学生によるアンケート調査報告がなされ、これまで同様、講義参加者と講師との質疑応答がなされました。

なお、これら3回の講義やアンケートの記録と講義風景の写真は2012年3月末にセンターより記録集として刊行されます。記録集に関心のある方は定期刊行物の場合と同様、センターにお問い合わせください。

地域の企業や自治体などからの事業相談や人材派遣などの仲介もセンターの活動の一環です。これまでも、旅行社からの海外旅行企画の相談、伊豆地域の美術館からこの地域の観光動向や観光客の特性などの相談、研修会講師の派遣依頼などがあり、人文学部の関連教員の紹介などを行っています。

このように、地域社会文化研究ネットワークセンターの活動は多岐に渡っていますので、地域の皆様にもいろいろお手伝いできることがあると思います。問い合わせ先は下記の通りですので、是非一度、お問い合わせ下さい。

地域社会文化研究ネットワークセンター

（担当者：杉田枝実子）

TEL：054-238-4900

E-mail：jrnc@ipc.shizuoka.ac.jp

防災総合センター活動報告

防災総合センター長 増田 俊明



防災総合センター研究会野外巡検

<ふじのくに防災フェロー養成講座>

- 講義 (4/2、4/9、4/23、5/7、5/14、5/28、6/18、6/25、7/16、7/23、8/6、8/20、9/3、10/1、10/15、11/12、11/26、12/10、12/24)
- 野外実習・現地実習 (9/17、10/29-30)
- 地域防災セミナー (6/18、7/23、11/26、2012/1/28、2/18)
- 教育研究会 (5/27)
- シンポジウム (2012/2/29)

<訪問・視察など来訪者>

- アセアン各国記者団訪問 (7/5)
- 神奈川県議会震災対策調査特別委員会訪問 (11/18)
- 大阪大学安全衛生管理部訪問 (2012/2/6)

<発行書籍>

- こころのケアハンドブック (改訂版 8月)
- キックオフシンポジウム報告書 (12月)

<研修・研究会など>

- 防災総合センター研究会・ゼミ (9/26-27、12/16)
- 平成23年度中部地域災害科学研究集会 (2/29)

<講演会・セミナー・シンポジウムなど>

- しずおか防災コンソーシアム関係(防災学講座) (4/16、5/28、6/11、7/16、9/17、10/22、12/3、12/17、2/18)
- シンポジウム (5/13、10/16、11/5、11/6)

- 講演会 (7/2、7/23、7/30)
- セミナー (8/4、11/10)

<現地調査>

■地震・地盤・地質

- 東北 (4/9-14、4/23-30、6/3-5、6/15-19)
- 静岡 (7/2、7/18-19、7/25-26、9/8-9、9/14、10/11-14、10/24-26、11/6、11/25、12/29-30、3/1)

■津波

- 東北 (4/2-7、4/24-26、5/10-12、5/16-20、5/22-25、6/24-28、6/30-7/1、7/31-8/3、9/10-11、12/7、12/9、12/27-28、2012/1/25-26)
- 伊豆 (9/12-13、12/10-11)

■堆積物

- 東北 (4/30)
- 静岡 (9/30、10/1、10/6、11/10、11/11)

■火山・火山ガス・温泉ガス

- 静岡 (5/1、7/3-6、7/9、12/27、2012/1/17-18、2/6、2/13、2/15、2/22、2/24)

■豪雨

- 和歌山 (9/6-7、10/20-22)

■放射線

- 静岡・神奈川 (12/11、2012/1/9、1/17-19、1/30)

■こころのケア・防災関連

- 新潟 (9/7-9)
- 東北 (11/15-18)



神奈川県議会局視察団

高柳記念未来技術創造館活動報告

電子工学研究所 青木 徹



今年度は約4,000名強の来館者、25の団体見学者があり、一般の見学者に加え、省庁関連、学会関連またテレビジョンメーカーおよびそのOBの見学など、見学者の幅が少しずつ広がってきています。Webサイトを見てきたよ、というお客様もいっしょり、また一方で熱心に見学したり質問したりする小学生研究者（実際は夏休みの自由研究ですが）もいたり、未来の日本の技術創造を担うお客様も増え、本館もだんだんと地域社会に定着してきた感があります。今後も高柳先生の教えを胸に未来を創造していく技術が少しでも芽生えていくよう活動を続けていきたいと思えます。スタッフによるブログもスタートして少しでも身近に感じていただけるようにしております。

<常設展示室>

大型コレクションであるブラウン管テレビの藤岡コレクションは、数十年前からテレビを間近に見られる本館人気のコーナーですが、当然ですが「アナログテレビ」です。本年度7月の地上デジタルテレビへの移行に対応するため、デジタルーアナログ変換器を導入して対応しております（ケーブルテレビ様のデジタルーアナログ変換も活用させていただいております）。藤岡様の協力でまもなくテレビ毎のデータの閲覧システムが導入され、テレビ技術の詳細にご興味のある方にもお答えできるようになります。また、このシステムには映像情報メディア学会様のご協力で、高柳先生が発足したテレビジョン同好会の頃からの学会誌をデジタルアーカイブでご覧いただくことができる予定です。ご期待ください。



藤岡コレクション（ブラウン管テレビの歴史）

<ラウンジ>

本館のもう一つの役割であるコミュニケーションサロンとしては、ラウンジで年間100回近い研究会や懇親会が開かれ、学内、国内の産学官連携、国際会議など地域から世界に至るまでの幅広い交流の場としてご活用いただいております。テクノフェスタin浜松ではスポンサー様からのご寄付によりホットドリンクをご提供させていただき、休憩、語らいの場としても多数のお客様のご来館をいただきました。特別展として高柳先生ゆかりの品も展示させていただきました。

未来を創造しようという意欲の高い若手教職員を中心に開催している「重点分野交流会」ではパート職員の皆様にも多数ご参加いただき、分野を超えた新しい連携が始まっております。

<サイエンスカフェ in浜松>

本年度、静岡キャンパスの理学部が開催しているサイエンスカフェを浜松にも、ということでサイエンスカフェ in浜松として7回開催しました。工学部・情報学部・電子工学研究所・創造科学技術大学院の若手の先生によるご講演を、コーヒーやお茶菓子と共に気楽に聞く会として地域の方にお越しいただきました。入試等で通常日程での開催が難しくなる2月、3月はお休みをいただきましたが、もちろん次年度も継続していきます。なお、ものづくりサロンは場所をCCE地域連携教育スペースに移動し、2回開催されました。

<新展示>

常設展示を少しずつ入れ替えただけ、企業展示ブースが日星電気（株）様の展示となりました。製品内部の基幹部品がどのように役立つかを子供にもわかりやすく展示いただいております。

また、静大発の製品の展示を開始し、未来を創造する静大発ベンチャー企業の製品を中心に今後充実させていく予定です。現在のところ、接触角系、放射線センサーを2階展示室に、階段吹き抜けに壁画を展示しています。本館のWebサイトも静大発ベンチャーの製品です。

皆様のご来館をお待ちしております。

情報学部地域連携推進室の活動報告

情報学部地域連携推進室長 岡田 安功



IT教育支援ボランティア活動中の小学校のパソコン室



浜松教育センターの情報教育研修会

<IT教育支援ボランティア活動報告>

情報学部の学生と情報学研究科の院生が今年度もこのボランティアに参加しました。今年度は前期においてボランティアの時間帯と学部の必修科目、選択必修科目の時間帯がバッティングしたために、学生の派遣が遅れた上に人数も減り、院生に依存する割合が大きくなりました。前期は8名の学生と2名の院生が参加し、後期は6名の学生と3名の院生が参加しました。ご協力いただいた派遣先の学校は、追分小学校、北小学校、曳馬小学校、広沢小学校、蛸塚中学校、高台中学校です。このボランティアには浜松市教育センターにもご協力をいただいています。学生たちは情報学部で学んだことを分かりやすく児童や生徒に伝えるなかで、学んだことをいっそう理解し、人間として成長します。

<静岡大学IT講師補佐ボランティア活動>

浜松市教育センターは市内の幼稚園、小学校、中学校の教員を対象にして情報教育研修会を開講しています。この研修会は年々内容を工夫して発展していますが、今年度は「ICT活用支援講座」「エクセル初等講座」「プレゼン初等講座」が開講されました。これらの講座で講師を補佐して受講生である浜松市の教員にパソコンの使い方を教えるのがこのボランティアです。学生たちは現職の教員に教えるという緊張感のなかで大変充実した時間を過ごしています。今年度は10名の学生と2名の院生が参加しました。

<自己発見教育に向けての公開講座の運営及びモニタリング活動>

情報学部地域連携推進室は静岡大学公開講座の一環として「情報学アラカルト講座」を浜松キャンパスのテクノフェスタ（静大祭も同時開催）に合わせて開講しています。今年度は11月12日（土）でした。この日は情報学部の父母懇談会が午後にかかれるので、この日の午前中に開講することによって、一般の市民だけでなく情報学部の学生の父母にも気軽に情報学部の研究と教育の一端を知っていただくことができるようになってきました。この趣旨を徹底させるために、今年度から講座を無料にしました。今年度も情報学部の3プログラム制に応じた内容で開講しました。各講座のタイトルと担当教員、教員の専門分野は次の通りでした。

講座1：「文明と文化 ～大陸から少し離れた島国・日本の特異性～」(講師：矢野 正俊 教授)

講座2：「温故知新の経営学 ～知識と文化の伝承～」(講師：田中 宏和 教授)

講座3：「Green by ICTによる静岡大学スマートキャンパス化」(講師：峰野 博史 准教授)

この講座は学生によってビデオ撮影されてDVD化され、担当教員がこれを教育に役立てることができるようになってきました。また、撮影する学生とは別に会場の設営を行う学生も会場係としてこの講座を聴講しています。この学生たちは講座の内容についてアン



公開講座とビデオ撮影中の学生

ケートで評価を行うことにより、次年度の公開講座に向けての建設的な意見を出すことが求められる一方で、講義を聴くことにより自己発見の機会をもち、地域連携についても考える機会を持つことが期待されています。

<浜松商工会議所ホームページ作成連携事業>

毎年、浜松商工会議所の紹介で中小企業のホームページを制作してきましたが、今年度は浜松商工会議所のホームページの一部を作成する連携事業「浜松365プロジェクト」を行いました。これは地域のビジネスマン向けに「ウェブカレンダー」を作成して、浜松商工会議所のトップページに新設する「ひめくりカレンダー」に情報を提供する事業です。この事業は、情報学部の文工融合という理念や実践的能力の育成という学部開設以来の方針、更にはフィールドワークの推進という文部科学省の方針にも合致しています。この事業を通じて学生は学びながら地域社会へ貢献しています。

<静岡大学教育学部附属島田中学校との学内連携>

昨年度から本学教育学部附属島田中学校と情報学部との学内連携を始めました。大学内で部局を超えた連携をするのは珍しいことであり、大変画期的な活動となっています。昨年度末に一応完成させた附属島田中学校のホームページはこのページを作った学生がコンテンツを更新していたのですが、今年度はコンテンツマネジメントシステムを組み込んで附属島田中学校の先生が更新できるようにし、サーバをクラウド化しました。平成24年度以降もコンテンツマネジメントシステムの増強とページのメンテナンスを情報学部生の有志が担当することになっていて、学生は3チームに分かれて研鑽を積んでいます。高度の技術が必要な

で、現在のチームは発足当初から勉強会を重ねていますが、先輩が後輩に技術を伝えるという体制が確立しつつあり、これからの展開が楽しみです。附属島田中学校の生徒は県内の広い範囲から来ており、この連携は従来よりも範囲の広い社会貢献になりました。

<学部内公募プロジェクト>

情報学部の研究と教育を地域社会への貢献を通して発展させるために、学部内で地域貢献のプロジェクトを公募しました。採択されたプロジェクトにはプロジェクトの経費の一部が支援されます。これは教員を責任者とするプロジェクトですが、メンバーに学生を加えて教育効果も高めることを推奨しました。8件の応募がありましたが、地域へ貢献しようという意欲を育てるために、すべてを採択し、応募時の請求金額を減額しました。プロジェクトのタイトルは次の通りです。

「遠鉄百貨店新館オープンに際するTwitterを利用した「マチナカ」評判分析」

「浜松周辺の漢文碑読解の指導、および、地域文化研究」
「記憶の交差展 一街かどの時間を切り抜いた学生写真展」

「浜松市における地域課題に関する地域・大学間の連携プロジェクト」

「東海地区ソフトウェア開発者意見交換会」

「浜松市における国際結婚カップル育成支援のためのサポートマニュアルの開発」

「小型ヒートポンプを用いた施設園芸環境向け湿度制御システムの開発」

「浜松市365日カレンダー」

<その他の諸活動>

■浜松まちなかにぎわい協議会との連携

浜松市の中心街を活性化するために「浜松まちなかにぎわい協議会」が2010年4月22日に発足しました。協議会の事務局は浜松市、商工会議所、金融機関、浜松商店各連盟、民間企業から構成され、静岡大学は特別会員として参加し、今年度も特別会員を更新しました。この協議会の活動は研究と教育において情報学部と関わりが深いので、この協議会の情報を直接手に入れるためにも、平成24年度以降も情報学部地域連携推進室が静大側の窓口として対応する方針です。

■学生東西交流企画への協力

昨年度の3月4日に地域連携推進室で浜松キャンパ

スの学生と静岡キャンパスの学生が学生ボランティアの東西交流について意見交換しましたが、これがきっかけとなって8月6日と7日に両キャンパスの留学生と日本人学生の交流会の企画会議が、地域連携推進室のTV会議システムを使って数回にわたり行われました。この協力は地域連携とはいえない業務ですが、学長の要請もあり、学生のボランティア活動を助長する趣旨で協力しました。

■卒業研究への協力

全学教育科目の「地域社会連携を考える」を受講した情報学部の学生が卒業研究のテーマに「大学の地域貢献」を選びました。私は室長としてこの学生の取材に応じましたが、情報学部の学生がこのような研究テーマを選択したことを大変嬉しく思います。

大学の社会貢献は大学を発展させる原動力です。大学の主役である学生と教員が社会というネットワークとうまく関わる環境を整えることが地域連携の要です。大学の社会貢献は、大学を中心に考えるのではなく、社会の需要を発掘して大学にしかできないことをすることにあります。平成24年4月1日からは浅間正通教授が新しい室長になります。

イノベーション共同研究センターの活動報告

イノベーション共同研究センター長 木村 雅和



イノベーション共同研究センターは平成3年にその前身の地域共同研究センターの発足以来、本年度で創立20周年を迎えました。また、本年度は本学が当番校となり全国国立大学共同研究センター長等会議を開催致しました。センター長等会議および20周年記念式典について以下に報告します。

【全国国立大学共同研究センター長等会議】

平成23年11月24日、25日、静岡大学が当番校となり、「64大学約200名の参加会議」を開催しました。

24日は、文部科学省の池田貴城 産業連携・地域支援課長より「産学官連携の戦略的展開」と題して基調講演が行われました。その後、2会場に分かれて分科会を行いました。A会場では「大学の連携体制について」(1) 広域連携による産学官連携の在り方 (2) 国際連携による産学官連携の在り方、B会場では「産学官連携による成果の指標について」(1) 産学官連携の費用対効果 (2) 産学官連携活動による教育・研究等への波及効果をテーマに議論が行われ、それぞれ10大学からそれぞれの取り組みについて発表が行われた後、活発な意見交換が行われました。

25日は、静岡大学の藤田武男 産学官連携コーディネーターによる「遠州が生んだ『世界新商品』開発ものがたり」と題した講演が行われた後、早稲田大学学事顧問・放送大学学園理事長の白井克彦先生による「イノベーション・エコシステムを確立する産学官連携」と題した特別講演が行われました。



分科会Bの様子（センター長等会議）

【イノベーション共同研究センター創立20周年】

イノベーション共同研究センターは、今年、創立20周年を迎えたことを記念し、平成23年11月25日に記念式典を執り行いました。センターは、地域社会における技術開発と技術教育の振興に資することを目的に、平成3年4月に地域共同研究センターとして設立され、平成15年に現在の名称となり、本年で20年となります。

11月の式典では、文部科学省科学技術・学術政策局産業連携・地域支援課長 池田貴城様、静岡県知事 川勝平太様からご祝辞をいただいたほか、経済産業省産業技術環境局大学連携推進課長 進藤秀夫様から「産学官連携の現状と今後の方向性」と題してご講演をいただきました。

また、モデレーターに独立行政法人科学技術振興機構理事 小原満穂氏をお迎えして、スズキ株式会社代表取締役会長兼社長 鈴木修氏、浜松市長 鈴木康友氏、本学学長 伊東幸宏による討論会を行いました。

討論会では、「地域のこれからを担う人材育成」をテーマに、時代・恩師からの影響、地域に根ざす「やらまいか精神」について討議いただき、今後の日本や地域にとって必要な人材とその育成について、「地元密着」「産業密着」「現場密着」という地方大学の1つの在り方、そして地域としては新しい産業創成のための「やらまいか精神」をベースにした教育・人材育成の必要性が述べられました。

当日は、地域の企業、自治体、大学、高専、公設試、支援機関の方々約300名にお越しいただきました。



討論会の様子（20周年記念式典）

工学部の高大連携活動報告

工学部高大連携 WG 委員長 星野 敏春



工学部の研究室紹介や出張授業など、高校生を対象とする活動は学部長補佐室所属の広報企画室が企画・運営していますが、“高校との連携で行う高校生対象の実験実習講座”の企画・運営は、学部長補佐室所属の高大連携ワーキンググループ（WG）が担当しています。高大連携WGには全学科から各1名の委員（合計4名）が参加し、広報企画室長が委員長を務めています。ここでは、高大連携WGが企画・運営している工学部の高大連携実験実習講座について紹介します。

工学部の高大連携実験実習講座は、「大学での実験実習を通して、(1) 工学・科学・技術の楽しさを知っていただく、(2) 工学・科学・技術の社会の中での重要性を認識していただく、(3) 将来の進路決定に役立てていただく」ことを目的として開講しています。下記は、平成23年度に行った工学部の高大連携実験実習講座です（(1)、(2)、(3)、(6)については、工学部のHPでも報告していますので、リンク先を示します）。

(1) 磐田南（SSH）・浜松工業・豊丘（SPP）・海の星（SPP）との合同の高大連携講座－9講座開講（機械2、電気電子2、物質3、システム2）

<http://www.eng.shizuoka.ac.jp/articles/view/4e6d504d-c25c-4721-83c8-0844a32ba0c4>

(2) 浜松南との高大連携講座－8講座開講（各学科2）

<http://www.eng.shizuoka.ac.jp/articles/view/4e43154c-b53c-4726-bd1c-6747a32ba0c4>

(3) 県のニュートンプロジェクト「ニュートンチャレンジ」－3講座開講（機械1、電気電子1、物質1）

<http://www.eng.shizuoka.ac.jp/articles/view/4e4c8da6-1c78-4b64-9732-4c53a32ba0c4>



上 (1) の開講式 学部長あいさつ
中 (1) の開講式 広報企画室委員による工学部説明
下 (1) の高大連携担当の高校の先生と広報企画室委員

(4) 浜松学芸高校との高大連携（システム工学科が対応、SPP）

(5) 浜松工業高校との高大連携（電気電子工学科が対応、SPP）

(6) 高校生のための機械工学体験セミナー（機械工学科が対応）

<http://www.eng.shizuoka.ac.jp/articles/view/4f403554-71d0-4213-83a4-0b60a32ba0c4>

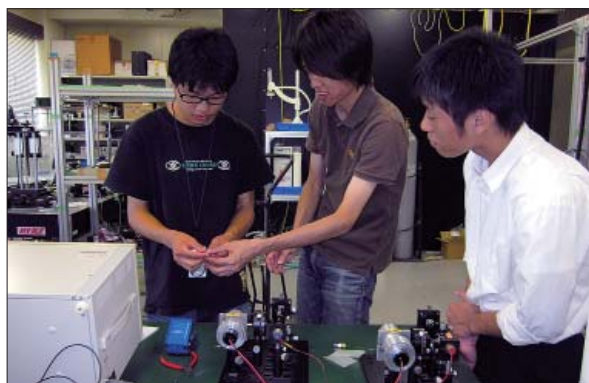
(1)、(2)、(3) は工学部の全学科で対応していますが、(4)、(5)、(6) は各学科が単独で対応しています。全学科が対応している (1)、(2)、(3) について、簡単に紹介します。

(1) の磐田南高校はSSH (super science high school) に3期続けて指定されており (第1期：平成15-17、第2期：平成18-23、第3期：平成24-28)、その運営委員会の委員長を工学部評議員が努めています。また、豊丘高校は3年前から、海の星高校は2年前から、工学部との高大連携活動で、SPP (science partnership project) に採用されています。

毎年、5月頃に、4つの高校の先生と高大連携WGの合同委員会を開催します。その会議では、実験実習講座として、各学科から提案されたテーマを高校の先生方に紹介し、各高校の先生方から意見を聞き、開講テーマを選びます。その後、各高校にて高校生の参加者を決めて頂き (参加人数は80名ほど)、8月10日頃の2日間に亘って実施します。開講式では、工学部長挨拶と広報企画室委員による工学部説明を行います。12月頃には、高校の先生方と高大連携WG委員の全員が参加する“合同反省会”を行い、実施内容についての反省点や課題を協議し、その結果を次年度のプログラム改善に役立てます。また、各高校生徒のアンケート調査結果を発表して頂きますが、進学志望の大学決定に役立ったとの意見などを聞きますと、安心します。

(2) の浜松南高校との高大連携実験実習講座は、理数系2年生40名の学生を対象として、8月10日頃に実施しています。各学科が2講座づつ (合計8講座、1講座2時間の実験実習) 開講し、それぞれの講座を午前・午後の2回行います。1講座に5名参加ですので、少人数教育の実験実習講座です。まず、開講式で工学部の研究・教育を説明し、その後、高校生は2講座を受講します。最後に閉講式を行い、実施内容についての意見を聞き、そこで出た意見を次年度のプログラム改善に役立てます。

(3) は平成21年度から行っている静岡県主催のニュートンチャレンジ (5年計画、静岡県の理数系の高校2年生を対象とする実験実習講座) です。工学部は平成21年度から、ニュートンチャレンジのために毎年3講座を開講してきました。各講座に3～6名参



上 (3) の機械工学科講座：流体・環境
中 (3) の電気電子工学科講座：人間の感覚を実現する計測器
下 (3) の物質工学科講座：液晶ディスプレイの化学と物理

加で、朝10時から夕方4時まで4日間行う少人数精鋭の実験実習講座です。実験実習講座に参加した高校生徒の感想文 (ニュートンチャレンジレポート集) を年度末に頂きますが、工学部の講座はかなり好評との印象です。県教育委員会委員の方からも、工学部講座は迫力があるとお言葉を頂いています。

以上が工学部全体で行っている高大連携実験実習講座の紹介です。これからも、高校の先生と連携して、理数系の人材育成のための活動を積極的に推進していきたいと考えていますので、よろしくお願いいたします。

＜各機関の連絡先（平成24年度の連絡先です）＞

- イノベーション社会連携推進機構（静岡） <http://www.crc.shizuoka.ac.jp/>
<http://www.lc.shizuoka.ac.jp/>
☎ 054-238-4902
☎ 054-238-4817
E-mail ochiiki@ipc.shizuoka.ac.jp
E-mail LLC@ipc.shizuoka.ac.jp
* 上段は旧地域連携協働センター、下段は旧生涯学習教育研究センター
- イノベーション社会連携推進機構（浜松） <http://www.cjr.shizuoka.ac.jp/>
☎ 053-478-1704
- キャンパスミュージアム http://www.shizuoka.ac.jp/c_museum/
☎ 054-238-4264
E-mail kenkyu2@adb.shizuoka.ac.jp
- 地域社会文化研究ネットワークセンター <http://www.hss.shizuoka.ac.jp/rnc/>
☎ 054-238-4900
E-mail rnc@hss.shizuoka.ac.jp
- 防災総合センター <http://sakuya.ed.shizuoka.ac.jp/sbosai/>
☎ 054-238-4502/4254
E-mail sbosai@sakuya.ed.shizuoka.ac.jp
- 高柳記念未来技術創造館 <http://www.nvrc.rie.shizuoka.ac.jp/takayanagi/>
☎ 053-478-1402
E-mail tmh@ipc.shizuoka.ac.jp
- 情報学部地域連携推進室 <http://www.inf.shizuoka.ac.jp/about/alliances.html>
☎ 053-478-1579
E-mail chiiki-megumi@ml.inf.shizuoka.ac.jp

＜平成23年度 地域連携協働センター運営委員会委員＞

- | | |
|----------------------------|--------|
| ■地域連携協働センター・センター長 | 柳澤 正 |
| ■生涯学習教育研究センター・センター長 | 阿部 耕也 |
| ■地域社会文化研究ネットワークセンター・センター長 | 野方 宏 |
| ■キャンパスミュージアム運営委員会・委員長 | 和田 秀樹 |
| ■防災総合センター・センター長 | 増田 俊明 |
| ■高柳記念未来技術創造館・館長 | 東郷 敬一郎 |
| ■生涯学習教育研究センター・准教授 | 金子 淳 |
| ■教育・附属学校園担当理事 | 石井 潔 |
| ■研究・情報担当理事 | 碓氷 泰市 |
| ■地域連携協働センター・コーディネーター（特任教授） | 土居 英二 |
| ■地域連携協働センター・コーディネーター（特任教授） | 満井 義政 |
| ■教育学部教育実践総合センター・センター長 | 菅野 文彦 |
| ■情報学部地域連携推進室・室長 | 岡田 安功 |
| ■創造科学技術大学院・教授 | 竹之内 裕文 |
| ■イノベーション共同研究センター・准教授 | 清水 一男 |

| | |
|--------|--|
| 発行日 | 2012年6月1日 |
| 発行 | 静岡大学イノベーション社会連携推進機構（旧地域連携協働センター） |
| 編集 | 森本 真弘（研究協力課） |
| 連絡先 | 〒422-8529 静岡市駿河区大谷836 静岡大学学術情報部研究協力課 ☎054-238-4902 E-mail: ochiiki@ipc.shizuoka.ac.jp |
| ウェブサイト | http://www.crc.shizuoka.ac.jp/ |